

We Guard All

トップメッセージ | 高谷 康久

ネットセキュリティにおける
トップブランドへ

株主・投資家の皆様へ

E-G通信

2024年 9月期

2023年10月1日~2024年9月30日

総合ネットセキュリティ企業として、 「We Guard All」の実現を 目指します。

今、日本では闇バイトによる強盗事件やなりすまし広告が頻発し、社会的不安を醸成しています。また、ランサムウェア等を用いたハッキングが、企業や公的機関等に大きな被害を与えています。インターネットやSNSを使った犯罪が社会の大きな脅威となる時代だからこそ、「We Guard All」を掲げるイー・ガーディアンの総合ネットセキュリティ企業としての役割が、かつてないほどに求められています。当社は事業の遂行を通じてこの社会的課題の解決に取り組み、全てのインターネット利用者の安心安全を実現していく重要性を改めて肝に銘じ、今後も成長してまいります。株主の皆様におかれましては、当社へのさらなるご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
高谷 康久

業績ハイライト

売上高

11,391百万円

前期比 4.3%

11,909 11,391

23/9 24/9

営業利益

1,705百万円

前期比 4.1%

1,778 1,705

23/9 24/9

親会社株主に帰属する
当期純利益

1,057百万円

前期比 14.0%

1,229 1,057

23/9 24/9

1株当たり当期純利益

92.08円

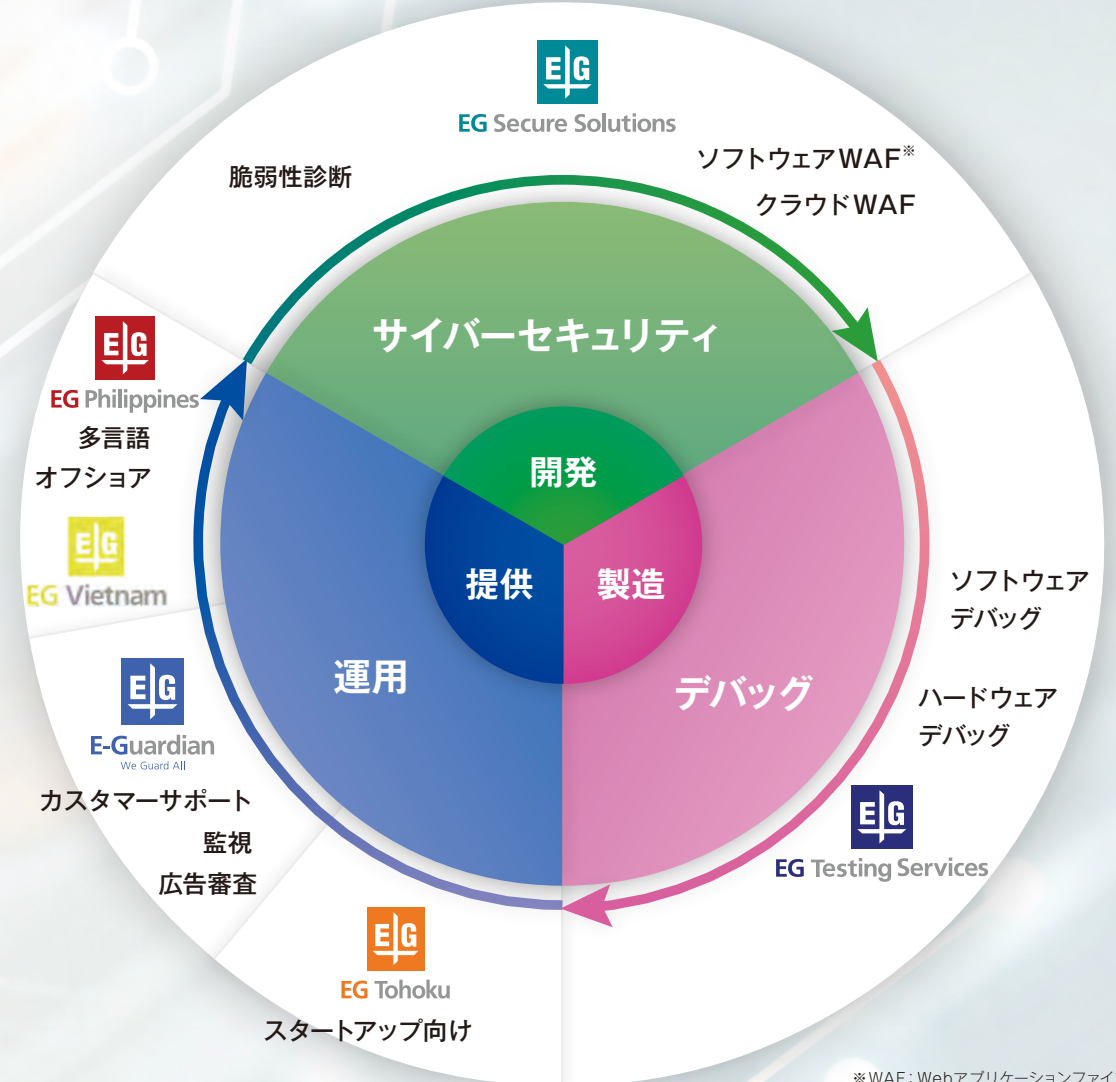
122.74 92.08

23/9 24/9

Point 既存事業の伸長、営業体制の強化を図りました が既存顧客の売上高減少により減収

EC・フリマ向けのカスタマーサポートが伸長。また、営業体制を強化し、顧客との関係構築に注力した結果、下期以降は既存顧客の新規案件獲得が進捗しました。しかし、上期の既存顧客の売上高の減少を吸収できず、減収となりました。サイバーセキュリティ事業では、脆弱性診断やWAFの拡販により大きく伸長いたしました。さらに、株式会社チェンジオールディングスの既存外注業務の当社への移管、相互の顧客基盤を活用した共同提案を開始しました。

インターネットサービスを上流から下流まで支える セキュリティのワンストップサービス



※ WAF: Webアプリケーションファイアウォール

チェンジホールディングスとの戦略的提携のシナジー効果発揮に向け 地ならしを進めた2024年9月期でした。

**新しく個人株主になられた方も多いで、
イー・ガーディアンの事業の成り立ちから、
チェンジグループと提携するまでの経緯を教
えてください。**

イー・ガーディアンは“*We Guard All*”、全てのインターネット利用者の安心安全を守ろうという理念で創業しました。最初はSNSなどの掲示板の投稿監視からスタートしましたが、2015年には日本のサイバーセキュリティの第一人者である徳丸浩の経営する企業（現EGセキュアソリューションズ）を買収して、サイバーセキュリティ分野に本格的に参入し、当社はコンテンツ運用の安心安全を提供する企業から、ウイルスやランサムウェア等を含めたサイバー空間のあらゆる危険に対応できる総合ネットセキュリティ企業へと発展してきました。

現在ではインターネット空間の脅威は企業や個人だけでなく、学校・病院などの組織や国家をも危険にさらし、脅威は加速度的に増大しています。この課題への対応は喫緊の社会的課題となっていますが、イー・ガーディアン単独で担うには、課題が大きすぎると言わざるを得ません。この課題を解決するためのセキュリティ体制の構築には相当数のサイバーセキュリティ・エンジニアが必要で、その人的投資を積極的に行っていくためには、より大きな資本と提携することが必要だとの

判断に至り、昨年、チェンジホールディングスとの戦略的業務提携を結びました。

同社は「*Change Japan*」をスローガンとし、日本の社会的課題の解決をミッションとする企業であり、日本におけるサイバーセキュリティの確立を重要課題として考えて、その実働を担える企業を探していました。

チェンジホールディングスは、経営陣のほとんどが日本での成長が最も顕著な米系コンサルティングファームである、アクセンチュアの出身者で占められています。チェンジホールディングスは、アクセンチュアが単なるコンサルティングだけでなく、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）まで含めたトータルなコンサルティングサービスを受注して大きく成長した手法を継承し、「ふるさとチョイス」で有名なトラストバンク社を買収して、地方自治体の約95%に対してふるさと納税に関するサービスを提供しているほど大きな顧客基盤と提案力を持った会社です。

したがってこの提携により中長期的には日本におけるサイバーセキュリティを担える中核企業としてイー・ガーディアンが成長すること、さらに大企業や公的機関をはじめとするチェンジホールディングスの顧客のBPOをイー・ガーディアンが受注するという形でのシナジー効果を展望しているところです。

2024年9月期の通期業績の評価について 教えてください。

売上は113億9100万円で前年比4.3%のマイナス、経常利益は17億800万円で前年比5.4%のマイナスになりました。上半期の売上の減少が大きかったことを要因として通期で減収となりましたが、第4四半期は前年度の売上を上回りました。

減収の背景にはサイバーセキュリティは順調に成長しているとはいえ、動画投稿やゲームなどの既存のエンターテインメント業界が、市場全体として一つの曲がり角に差し掛かっているという現状があります。

日本のインターネット系エンターテインメントではコンテンツやメディアを提供している会社の業績の伸びに鈍化傾向がみられます。ゲームにしてもかつてのように次から次へ新作が出てくるような勢いがなくなっているという印象を受けます。

ただ、他方で社会のデジタル化の流れは確実に進んでいるため、イー・ガーディアンのサービスへの需要は間違いなく高まってきています。当社はこの分野の需要を、とりわけ大企業や公的機関を対象にしたエンタープライズ系BPOとして、チェンジホールディングスと提携することにより取り込もうとしています。この取り組みには準備や顧客へのアプローチに相応の時間を要するものとみており、そのシナジーが数字に表れてくるにはタイムラグがあると考えています。

ただ足元の状況を見渡すと、サイバーセキュリティは前年比で見て大きく伸びています。2024年には当社の主力商品の1つである「*Site Guard*」がWAF（Web Application Firewall：クラウド型ファイアウォール）

の国内市場シェアNo1^{*}を獲得しました。日本で最も使われている実績と信頼が、今後のチェンジホールディングスとのシナジーによるサイバーセキュリティ製品・サービスのさらなる販売促進につながっていくと考えています。

そこから見ても、チェンジホールディングスと提携して、エンターテインメント系BPOからエンタープライズ系BPOへと拡張していく方向、さらにサイバーセキュリティ分野を伸ばしていく方向は間違っていないと確信しています。

地方自治体や大企業へのBPO提供について、 進捗はいかがですか？

日本において大きな課題となっているのは、人手不足です。東京や大阪などの大都会での人手不足が大きく報じられていますが、特に地方ではデジタル人材の不足が深刻で、ノウハウも人手も足りていない状況です。具体的に言いますと、今や中小企業、病院、地方公共団体においても自分達へのクレームや悪口などの書き込みがないか、SNS等をモニタリングしなければならない時代です。しかし、それに全く対応できてない企業や組織、それをアウトソーシングしないで自社内部で担っている企業や組織がまだまだ多くあり、コールセンターさえも自社で対応し、大きな負荷を抱えています。

それをどうやって解決するのかというところに、イー・ガーディアンのビジネスチャンスが広がっています。当社には、BPOを担えるデジタル人材が豊富で、リモートで24時間365日まとまった業務をこなせるだけの

※2023年12月期_指定領域における調査 調査機関：日本マーケティングリサーチ機構

キャパシティがあります。しかも多言語対応が可能です。

当社はそういうリソースやノウハウを有していますが、これまで動画やゲームなどのエンターテインメント系の営業が中心であったため、こうした課題を抱える企業や組織、地方自治体にコンサル的営業をかける経験やノウハウがありませんでした。

そこで、BPOを含めたトータルなコンサルティングを得意とするチェンジホールディングスとの提携が意味を持ちます。アクセント出身者が集まって創業した同社が最も得意とするのがコンサルティングだからです。コンサルティングはクライアント企業がBPOを導入することで効果を発揮するケースが多いわけですが、そのBPOを当社が提供することでシナジー効果が発揮されます。すでにそうした提案を開始していますし、チェンジグループが顧客として大企業や地方自治体向けに、BPOをパッケージ化して提供する計画も進んでいますので、今期以降に本格的なシナジー効果が出ると考えています。

「AI×人」のハイブリッド型のサービスを開発・提供されていますが、特徴を教えてください。

当社は従来から人工知能型画像認識システム「ROKA SOLUTION」を運用して画像監視サービスを提供していますが、「AI×人」のハイブリッド型「ROKA Custom」は目的に応じた画像認識モデルを自由かつ迅速に構築できるのが特長です。検知したい著作物や不適切画像、著名人などの画像の不正使用等を防ぐために、目的に応じた教師データをAIに学習させ大量の画像データから問題画像を抽出し、それに

人の目による判定を加えます。そして、問題画像が抽出された場合には、必要に応じて過去にさかのぼっての大量な検索をAIにより実施し、これまでよりもはるかに効率的で精度の高い画像監視を、利用者には低コストで提供できるようになりました。

また、テキスト投稿監視の分野でも、これまでもAIを活用した投稿監視システム「kotonashi」を運用してきましたが、生成系AIを積極的に活用するためにチェンジグループのガバナンステクノロジー社と連携して、「AI×人」のハイブリッド型テキスト投稿監視システムの開発にも着手しております。今後もAI開発には積極的に投資を行って、サービスレベルの向上とオペレーション効率の改善を図っていきたいと考えています。

人材確保や育成の面ではいかがですか？

日本のサイバーセキュリティのメインプレイヤーとなるためには、人材確保が急務です。採用はもちろん提携やネットワークを含めて最終的に6,000人のエンジニアを集める計画を着々と進めています。まず来年4月に入社予定の大学新卒エンジニアを15人採用しました。従来は5人程度でしたから、3倍に増やしていますが、そのために採用・人事に関するエキスパート人材を新たに採用して人事採用・育成部門を強化しました。

人材の確保には、働く環境の整備も重要です。あまり意識して来なかったのですが、正直、驚いているのですが、今年5月の『週刊東洋経済』の調査「女性活躍先進企業ランキングTOP100」で、当社が全国7位にランクされました。この調査は、女性が「職場に定着して」

「しっかりと昇進でき」「男性と遜色ない給料を受け取っている」ことを活躍の基準として定義し、厚生労働省の「女性の活躍推進企業データベース」における「勤続年数の男女比」「女性管理職割合」「男女賃金差」の3項目を元に1,268社を評価したものです。

さらにグループ会社であるEGセキュアソリューションズ株式会社は、ミイダス社と朝日新聞社が主催する「はたらく人ファーストアワード2023」において、充実した研修補助制度と柔軟な勤務スタイルが評価され、Bronze賞を受賞しました。

今後もますます働きやすい職場環境を整えて、優秀な人材確保に努めていきたいと思っています。

今後の展望を聞かせてください。

今、特殊詐欺や世間を騒がせている闇バイトの強盗事件などが多発しています。本来は、警察が取り締まるべきですが、それがなかなか効果を上げられていないのは、警察がリアルな世界での事件を想定して組織されているため、ネットを活用した犯罪に対応できる人手が不足しているからです。警察でサイバー犯罪対策部隊を作ろうとしています、事態の進展に追いついていません。自衛隊もサイバー軍を作ると言われていますが、人材の確保に難航しています。

ではどうすればいいのでしょうか。

かつて、日本では路上駐車の違反が溢れかえっていました。それが今は激減しています。どうしてかというと、路駐取り締まりを民間委託するようになったからです。

インターネットを使った犯罪や国家社会の安全を脅かすハッキング行為等に対しても、その摘発をノウハ

ウを持つ民間に委託して警察や自衛隊と共同して行うようにすべきだと思います。そうしたやり方が、現に起きている社会的危機を封じ込めていく近道だと考えていますし、イー・ガーディアンは「We Guard All」の理念のもと、その担い手として社会課題を解決し、今後も大きく成長できると確信しています。

最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

「We Guard All」の企業理念のもと、ネットの安心安全を守る私たちのサービスは、これからますます必要とされる時代になっていきます。イー・ガーディアンが本来やるべきミッションの大きさから比べると、現在までの歴史はまだ序章に過ぎないと思っています。

そうした当社の考えを理解し支えてくださる株主の皆様には感謝しかありません。当社は、株主皆様のサポートにさらに報いる方向へと舵を切り、2024年9月期から配当性向を30%程度とすることを取締役会で決議しています。引き続き、ご支援ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

代表取締役社長
高谷 康久



会社概要 (2024年9月30日現在)

商号	イー・ガーディアン株式会社 E-Guardian Inc.
代表者名	代表取締役社長 高谷 康久
設立	1998年5月
資本金	1,967百万円
従業員数	連結2,378名(うち臨時従業員数1,976名)
本社	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F TEL: 03-6205-8857 FAX: 03-6205-8858
関連会社	EGセキュアソリューションズ株式会社 EGテストングサービス株式会社 E-Guardian Philippines Inc. E-Guardian Vietnam Co.,Ltd. イー・ガーディアン東北株式会社

株式情報 (2024年9月30日現在)

株式の状況

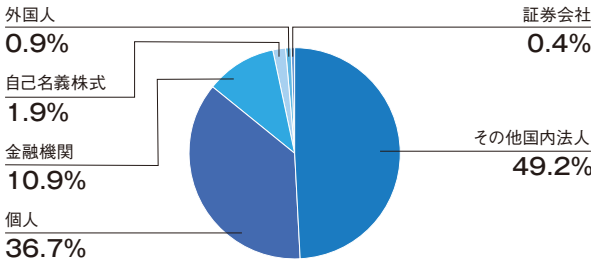
発行可能株式総数	32,400,000株
発行済株式の総数 [うち自己株式221,580株]	11,933,516株
株主数	23,461名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社チェンジホールディングス	5,822,824	49.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	848,000	7.24
高谷 康久	661,904	5.65
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	399,038	3.41
溝辺 裕	113,550	0.97
宮坂 誠	73,004	0.62
イー・ガーディアン従業員持株会	30,300	0.26
佐々木 靖太	30,000	0.26
株式会社日本カストディ銀行 (信託口4)	27,600	0.24
大亀 磨央	25,300	0.22

- (注) 1. 当社は、自己株式を221,580株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。また、持株比率は小数点第2位未満を四捨五入して表示しております。
3. 自己株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式(178,138株)は含まれておりません。

所有者別株式数の分布状況



株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月に開催
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告とする。 やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行う。

電子公告掲載URL
<https://kmasterplus.pronexus.co.jp/main/corp/6/0/6050/index.html>



イー・ガーディアン株式会社
<https://www.e-guardian.co.jp/>

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F
TEL:03-6205-8857 FAX:03-6205-8858

